

## 【熊本 S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 前歯部ブリッジにオベイト・ポンティックを用いた2症例

演 者 栗原健一

日付 2007年10月23日

### Keywords

1. オベイト・ポンティック
2. 抜歯即時と待時

ブリッジにて前歯部歯冠修復を行う場合、ポンティックの形態は機能性と審美性の両方でとても重要だと思われれます。症例1は58歳男性で右上1を抜歯後 TEK にて抜歯窩の治癒を待っていました所、息が漏れるのと「サシスセソ」の発音がしにくいということで、TEK のポンティック基底面の形態をオベイト・形態に修正しました。その後主訴が改善しましたのでそのまま最終補綴に移行しました。症例2は64歳女性で右上2を C4 にて抜歯を行い、抜歯窩の歯肉の退縮を保護する目的で抜歯即時にオベイト・ポンティックを利用し、治癒に伴い TEK を削合しながら歯肉の形態を作っていました。

症例1は1年ほどの経過で、症例2は経過を追えていないのですが、先生方の御指導の程宜しくお願い致します。